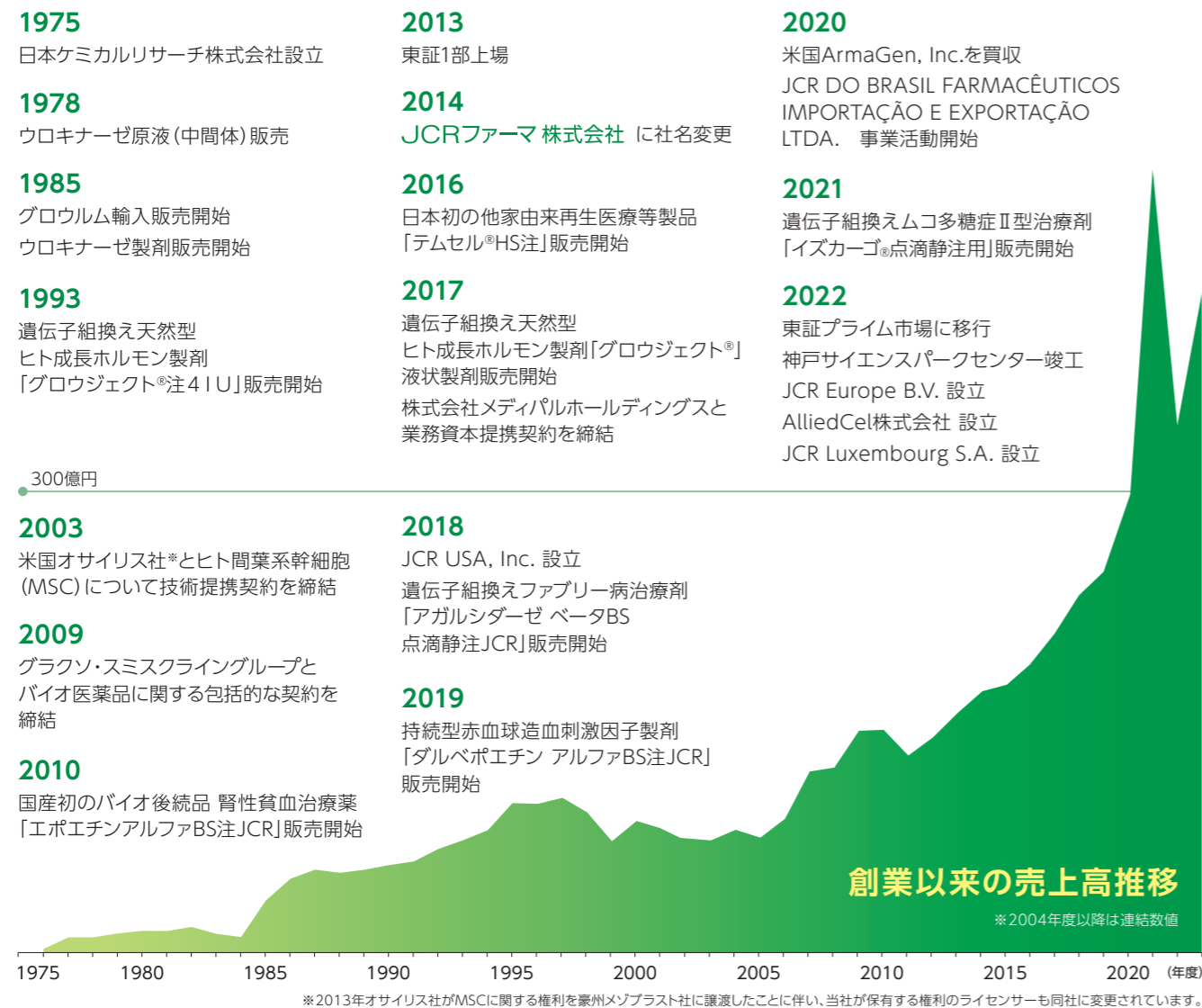


創業以来のベンチャー精神をDNAとして JCR独自の強みを育み、持続的成長を実現してきました。

JCRIは、1975年の創業以来、常に他社より「一歩前が出る」技術開発と製品創製に取り組み、「バイオ医薬品のJCR」として着実に成長を続けています。2021年5月にJCR独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」を適用した世界で初めて

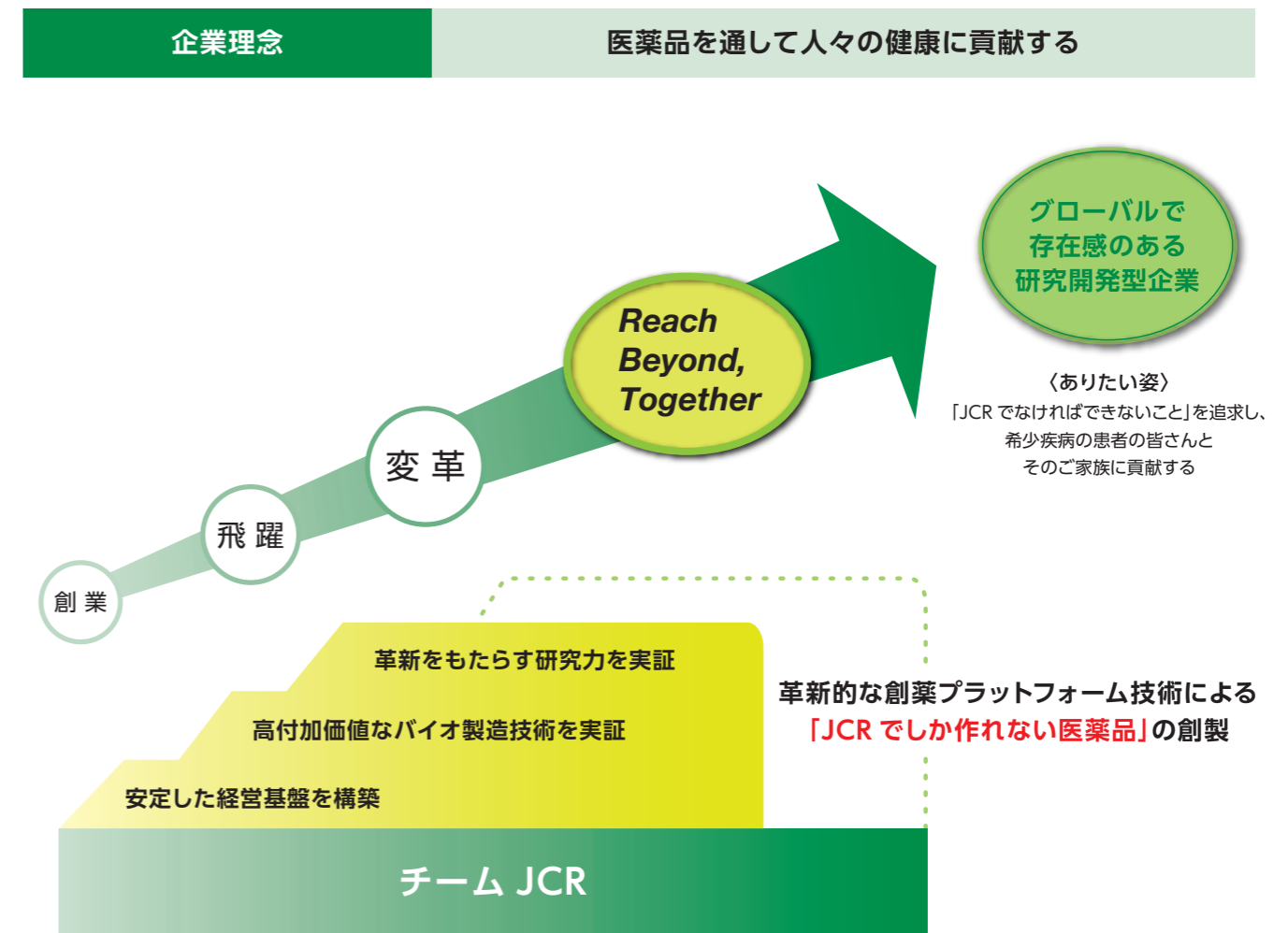
の医薬品「イズカーゴ®点滴静注用」の販売を開始することができました。今後も、希少疾病治療薬のスペシャリティファーマとして、より多くの患者の皆さんの治療に貢献できるよう取り組んでいきます。



一人でも多くの患者の皆さんとご家族のために 「JCRでしか作れない医薬品」の創製にチャレンジします。

JCRIは、2023-27年度中期経営計画「Reach Beyond, Together」のもと、革新的な創薬プラットフォーム技術による「JCRでしか作れない医薬品」の創製にチャレンジし、「グローバルで存在感のある研究開発型企業」の実現を目

指しています。「チームJCR」の総力を結集して下記の5つの取り組みに注力し、研究開発の進展による成長の可能性への断固とした投資を行うことによって新たなイノベーションを創出し、価値の最大化を図っていきます。



精製技術の確立



創業時の生産風景

細胞構築～培養技術の確立



現在の生産風景

再生医療分野への進出

JCRの歴史は、尿由来のタンパク質分解酵素「ウロキナーゼ」の製造からスタートしました。希少疾病用医薬品分野に独自のバイオ技術、細胞治療・再生医療技術、遺伝子治療技術で挑戦し、「グローバルで存在感のある研究開発型企業」を目指して邁進します。

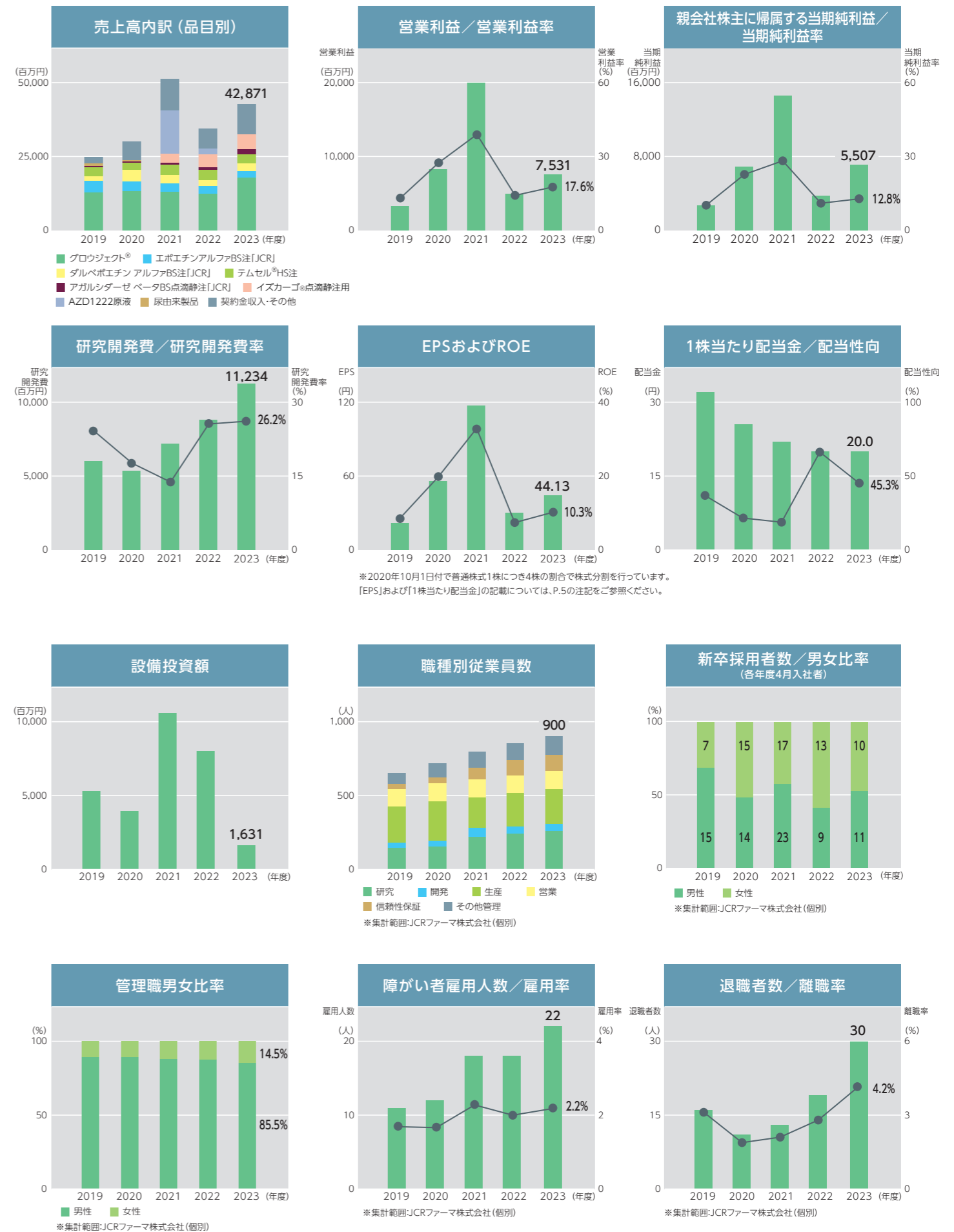
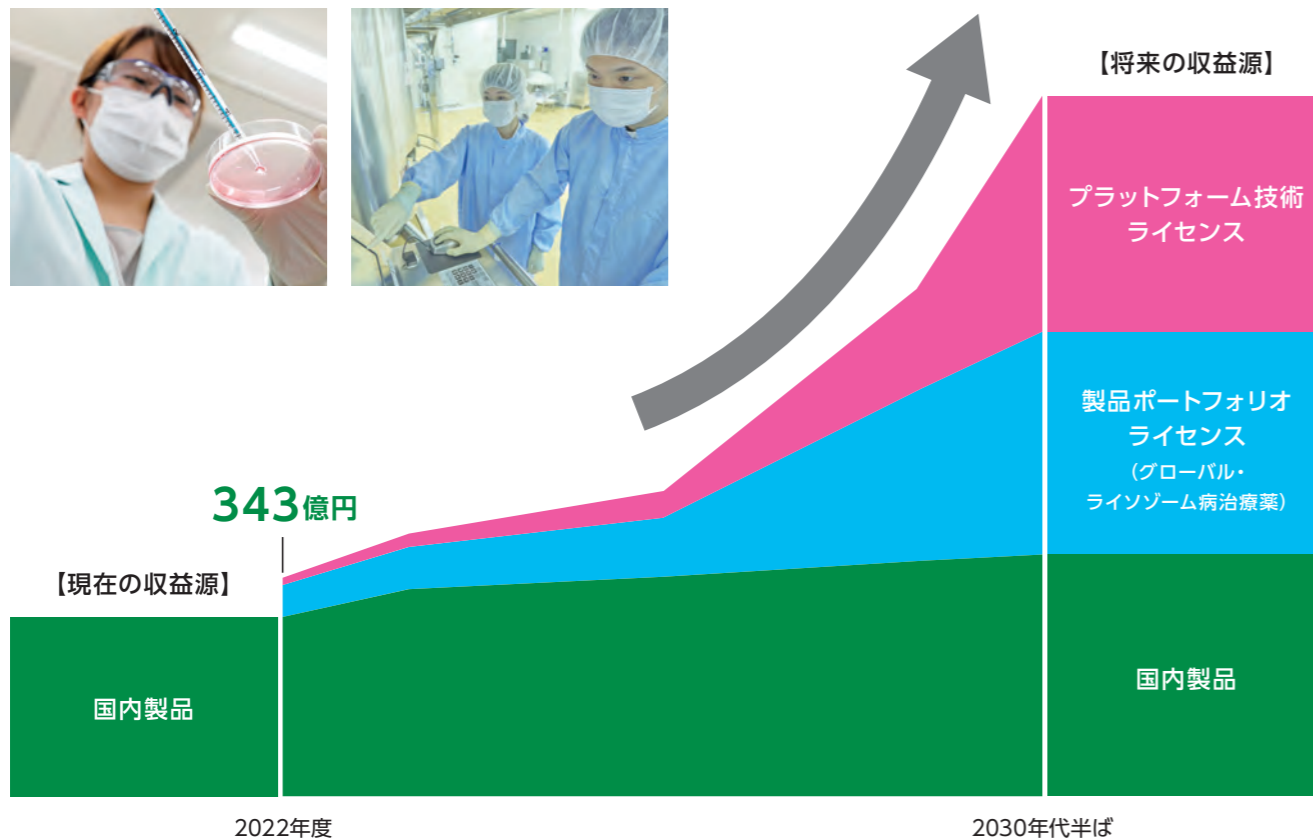
- 5つの取り組み**
- 1 革新的な基盤技術の創製
 - 2 グローバル基準の生産能力発揮
 - 3 グローバル品質保証体制の質・量的拡充
 - 4 希少疾病品目の早期上市
 - 5 成長を支える人材育成

研究開発の進展による成長の可能性への断固とした投資を行い 新たなイノベーションを創出し、価値の最大化を目指します。

JCRIは今や、バイオ医薬品の研究から製造まで一貫して対応できる、日本でも数少ない会社の一つとなりました。今後も引き続き、創業以来培ってきた独自の「研究開発力」と「モノづくり力」を結集し、一人でも多くの患者の皆さんとご家族のために、「JCRでなければできないこと」を追求することこそが、我々の存在意義であると考えています。その使命を

果たすべく、2023-27年度中期経営計画「Reach Beyond, Together」では定量的なガイダンスをあえて設けず、研究開発の進展による成長の可能性に断固として投資していきます。そして、新たなイノベーションの創出に果敢にチャレンジすることによって価値の最大化を図り、2030年代には1,000億円に近づくような売上高を上げられる企業を目指します。

2030年代に売上高1,000億円企業へ



11年間の要約財務データ

毎年3月31日に終了した連結会計年度

単位:百万円

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
会計年度											
売上高	15,705	16,855	17,438	18,085	20,594	23,160	24,781	30,085	51,082	34,343	42,871
営業利益	1,545	2,014	2,152	2,362	3,784	4,967	3,244	8,269	19,933	4,975	7,531
親会社株主に帰属する当期純利益	1,296	1,682	1,789	1,863	3,070	3,715	2,678	6,892	14,507	3,772	5,507
包括利益	1,544	1,936	1,557	1,831	3,016	4,008	2,504	6,841	14,514	3,881	6,475
研究開発費	2,202	3,334	3,348	4,071	4,211	4,354	5,997	5,360	7,175	8,802	11,234
設備投資額	2,260	1,522	1,237	1,409	908	1,517	5,296	3,965	10,612	8,023	1,631
減価償却費	1,111	1,352	1,407	1,447	1,382	1,343	1,434	1,892	1,945	1,997	3,197
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,565	499	2,201	2,651	3,133	3,905	4,927	10,341	9,289	△5,500	9,312
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,668	△1,419	△980	△841	△1,587	240	△4,161	△3,290	△3,250	△15,002	△2,690
財務活動によるキャッシュ・フロー	△369	△1,261	△1,314	146	△2,175	△917	2,048	8,304	△2,179	1,948	△2,031
会計年度末											
総資産	33,464	34,086	35,346	36,385	38,398	42,516	47,775	73,784	97,134	94,937	102,226
純資産	24,580	26,264	27,062	27,585	27,528	30,874	32,579	38,557	51,089	52,413	56,475
自己資本	24,417	26,101	26,819	27,305	26,999	30,249	31,806	37,864	50,316	51,421	55,365

単位:円

1株当たり情報											
当期純利益 (EPS)	10.20	13.21	14.03	14.74	24.68	30.17	21.72	55.81	117.26	30.35	44.13
純資産	192.03	204.66	210.84	216.17	219.46	245.54	257.92	306.31	406.57	412.11	443.62
配当金	17.00	18.50	22.00	22.00	26.00	30.00	32.00	25.50	22.00	20.00	20.00
財務指標等											
自己資本比率 (%)	73.0	76.6	75.9	75.0	70.3	71.1	66.6	51.3	51.8	54.2	54.2
自己資本当期純利益率 (ROE) (%)	5.4	6.6	6.8	6.9	11.3	13.0	8.6	19.8	32.9	7.4	10.3
配当性向 (%)	41.7	35.0	39.2	37.3	26.3	24.9	36.8	21.5	18.8	65.9	45.3
従業員数 (名)	472	501	526	566	568	632	667	732	816	879	934

(注) JCRは、2020年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っています。2012年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり情報の当期純利益 (EPS) および純資産を算定しています。
 なお、2019年度以前の1株当たり情報の配当金については、株式分割前の配当金の額を記載しています。また、2020年度の1株当たり情報の配当金は当該株式分割前の1株当たり中間配当金18円と当該株式分割後の1株当たり期末配当金7.5円を合算した金額となっています。2021年度以降の1株当たり情報の配当金については、株式分割後の配当金の額を記載しています。

遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤

グロウジェクト®



1993年に製造販売承認を取得した、成長ホルモン分泌不全が原因となる小児低身長などの疾患に適応される医薬品です。2017年1月には、従来の凍結乾燥製剤が必要であった溶解操作が不要になる液状製剤を発売し、2023年6月には5つめの適応症を追加しました。また、2023年9月には、4世代目である専用電動式注入器「グロウジェクター®Duo」を新発売し、引き続き成長障害治療に対する幅広い選択肢を提供しています。

【適応症】

- 成長ホルモン分泌不全性低身長症 (GHD)
- ターナー症候群における低身長 (TS)
- 成人成長ホルモン分泌不全症 (AGHD)
- SGA (small-for-gestational age) 性低身長症
- SHOX異常症における低身長 (2023年6月効能追加)

遺伝子組換えムコ多糖症Ⅱ型治療剤

イズカーゴ®点滴静注用※



JCR独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」を適用した世界で初めての医薬品であり、ムコ多糖症Ⅱ型（ハンター症候群）治療剤として2021年5月に発売しました。本剤は世界で初めて点滴静注で全身症状だけでなく血液脳関門を通過し、脳実質細胞への直接作用を発揮する医薬品です。脳実質細胞への直接的作用により、中枢神経症状の改善または進行の抑制が期待できます。

【適応症】

- ムコ多糖症Ⅱ型

※2023年4月24日から住友ファーマ株式会社と共同で、本剤の医療機関への医薬情報提供活動を行っています。

ヒト体性幹細胞加工製品 ヒト（同種）骨髄由来間葉系幹細胞

テムセル® HS注



造血幹細胞移植後に発症する重篤な合併症である急性移植片対宿主病（急性GVHD）に適応として、2016年2月に世界に先駆けて発売しました。健康な成人から採取した骨髄液からヒト間葉系幹細胞（MSC）を分離・拡大培養し、その細胞自体が有する能力を利用する日本初の他家由来再生医療等製品です。

【適応症】

- 造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病

【腎性貧血治療薬】

遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤

エポエチンアルファBS注「JCR」※1



JCRの無血清培養技術や独自のバイオ技術を活かして開発し、国産初のバイオ後続品として2010年5月に発売しました。包括医療制度が実施されている透析医療分野において、経済性の高いバイオ後続品のニーズが高まっています。

【適応症】

- 透析施行中の腎性貧血
- 未熟児貧血

持続型赤血球造血刺激因子製剤

ダルベポエチン アルファBS注「JCR」※1



「エポエチンアルファBS注」JCR」で培った経験を活かして開発したバイオ後続品で、2019年11月に発売しました。本製品を腎性貧血の治療における新たな選択肢として提供することで、より一層医療に貢献できるものと考えています。

【適応症】

- 腎性貧血

※1 キッセイ薬品工業株式会社との共同開発品であり、JCRが製造し、キッセイ薬品工業株式会社が医療機関への医薬情報提供活動および販売を行っています。

遺伝子組換えファブリー病治療剤

アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」※2



JCRにとって第一号となるライソゾーム病治療酵素製剤であると同時に、国産初のライソゾーム病治療酵素製剤として、2018年11月に発売しました。製造面においては、無血清培養での製造を実現しており、ファブリー病の治療における新たな選択肢として市場浸透を図っています。

【適応症】

- ファブリー病

※2 2022年4月1日から住友ファーマ株式会社が、本剤の医療機関への医薬情報提供活動および販売を行っています。

研究拠点 (神戸市 西区)

研究所



バイオリサーチセンター



新製剤工場/神戸サイエンスパークセンター

(2027年竣工予定) (2022年竣工)



生産拠点 (神戸市 西区)

西神工場 再生医療等製品・医療機器



神戸工場 製 剤



本社 (芦屋市) / 営業拠点

本社



室谷工場 原 薬



神戸原薬工場 原 薬

